

板橋区中小企業診断士会研修旅行に参加して ～脱「日本一影の薄い県」、栃木県の取り組みをめぐる～

城西支会(板橋区中小企業診断士会) 仙田 恭一
kyo@adnes.jp

板橋区中小企業診断士会が毎年実施している研修旅行に参加した。

今年は、9月5日(土)から6日(日)の1泊2日で、木工の街であり日本有数の「そば」の産地でもある栃木県鹿沼市を訪れ、地域の産業活性化の取り組みを学ぶ旅であった。

今回の参加者は5名。当日は抜けるような青空が広がる好天で、絶好のドライブ日和、ではなく研修旅行日和となった。



朝8時半、池袋サンシャインシティ前に集合。レンタカーを借り、一路、栃木県を目指す。車中では「日本一影の薄い県」の汚名返上に向けた栃木県の取り組みのひとつ「とちぎ食の回廊づくり」について活発な議論が交わされた。

百聞は一見にしかず。午前中の見学先はそばの実から自家栽培しているという農村レストランめぐりである。鹿沼市には鹿沼産玄そば100%使用の「認証店」が約30店舗あり、それぞれが連携しあって文字通り「回廊」を形成している。山間の素朴なそば店は味も雰囲気も良く、再び訪れる価値ありと一同納得であった。

午後は、となりの宇都宮市にある漬物の大手「株式会社アキモ」の工場を見学した。



工場見学といっても、単なる生産ラインの視察ではなかった。社長自らが自社の人材育成方針や品質管理に対する熱い想いをたっぷりと語ってくださった。あっさりとした漬物が、こんなに熱い情熱で漬け込まれていたことを知り大いに感銘を受けた。

宿舎は市街から離れた高原の牧場地。道中、ヘアピンカーブの連続であったが、ほのぼのとした宿でくつろぐことができた。

翌朝は、高原の山道を1時間半ほど散策。散歩というよりは山歩きといったほうが適切であろうか、ハードな山道は運動不足のカラダによい運動となった。

その後、足尾銅山を見学。木のふるさと伝統工芸館ではボランティアの方から優雅にして勇壮な祭礼と彫刻屋台について詳しく解説いただいた。

さまざまな人々が、それぞれの立場から、地域に根ざした活動を着実に実行し、そして継続されている。そんな栃木の取り組みを短時間に体感できた、充実した研修旅行であった。